

作成方針（コンセプト）

【テーマ】

リサイクルの先へ ― ごみを減らすことの大切さ

【趣旨】

近年、資源循環やリサイクルへの関心は高まっており、子どもたちの間でも「分別することは環境に良いこと」という認識が広がっています。一方で、「リサイクルできるから大丈夫」という意識から、物を手に入れることや使うことそのものを見直す機会は十分とは言えません。

しかし、物は作られる段階から資源やエネルギーを消費しており、運搬やリサイクルの過程でも環境負荷が発生します。そのため、リサイクルは重要な取組である一方、環境負荷を最も抑える方法は、そもそもごみになるものを増やさないことです。

本マンガでは、「ごみ問題は捨てる時ではなく、物を手に入れる時から始まっている」という視点を、子どもにも理解しやすい形で伝えることを目指します。単に分別やリサイクルの大切さを訴えるのではなく、「本当に必要なものだろうか」「長く使えるだろうか」と考えることの重要性に気付いてもらい、3R の中でも最も優先される「Reduce(ごみを減らす)」の考え方を理解できる内容とします。

また、子ども向けの内容でありながら、保護者にとっても共感しやすく、家庭内で物の選び方や使い方について話し合うきっかけとなることを期待しています。分別やリサイクルの役割を認めた上で、より上流にある「ごみを出さない工夫」へと視点を広げる漫画としたいと考えています。

粗筋案

展開	話者	セリフ・ナレーション(案)
現状の課題	子ども・親	子:「やったー！このお菓子、おまけ付きだ！」 親:「また増えたわね。ちゃんと遊ぶの？」
	子ども	子:「大丈夫！いらなくなったらリサイクルに出せるもん！」
疑問	市担当	「それは良いことだね。でも、もっと良い方法があるんだ。」
驚き	市担当	市担当:「このおもちゃは、作るときも運ぶときにもエネルギーを使っている。リサイクルするときも同じだよ。」 子:「リサイクルしても？」
価値観の転換	市担当	「リサイクルはごみになった後の工夫。でも本当は、、、」
	市担当	「ごみにならないことの方が、もっと環境に優しい！それに、宝塚市の焼却炉から出る焼却灰は神戸湾に埋め立てられているんだけど、埋め立て場がいっぱいになってしまうと灰を捨てられなくなってしまう。」

行動変容の促進	子ども	「じゃあ、おまけが欲しいから買うんじゃなくて、本当に欲しいか考えることが大事なんだ！」
共感・締め	親・市担当	市担当:「ごみになった後を頑張るのがリサイクル、ごみになる前にできるのがごみ減量」 親:「地球を大切にするためにも、いらないものは買わない、ごみをださないことが大切ね」